

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立牛久保小学校] 担当教諭名 [藤木 甲奈] (6年1組 35名)

相手国・地域 [タンザニア]

海外学校名 [Pugu Secondary School] 担当教諭名 [Robert Obadia]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	Mpango wa rafiki (友だち計画)	35
	外国語活動	タンザニアの国について知ろう	5

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	国際理解 タンザニアの文化やその人たちが大切にしている価値観
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「電力について」 限りあるエネルギーについて、それぞれの国の状況を知り、私たちにできることは何かを考える。異なる文化をもつ人々を理解し尊重する態度を育む。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教室などタンザニアのことについて学ぶ機会があったこと。出前授業でタンザニアについて話をする日本人の方が来校してくださったことで、異文化への理解を深めることができた。 台風で停電になっている地域を新聞で読み取ることで、エネルギーについて深く考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連絡のやり取りがスムーズにいくとよかった。返答が遅く、困ることがたびたびあった。 授業時間に相手の学校が始業していなく、スカイプなどを通じて、交流が難しかった。 相手校が中学生であったためテーマが難しかった。 輸送料など、経費がかかるのが課題である。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> タンザニアの食文化や生活の様子など、文化が違って同じ人間なんだという寛容な考え方の変化が見られた。 エネルギーの問題に直面したことで、世界の出来事に目が向くようになった。 作品を通して、相手意識をもって活動する楽しさを味わっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> タンザニアの生活の様子から自分たちの生活に目を向けられ、エネルギーに関心を抱いたり、タンザニア人の心の豊かさを感じ取ったりしている子ども達を見ることができた。 絵に表す時には進んで活動する様子が見られた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	・学校紹介 フォーラムにアップする。	写真を通して、相手校を知る。全員男子で、自分達より2歳年上だということに驚く。	総合2 国際理解1
共有 テーマ学習	7月	・タンザニアとどのようなつながりがあるか？未来について考えよう。 ＜タンザニアについてまとめる＞	タンザニアの文化を知ることが多く、実際にタンザニアの物に触れたり、食べ物の名前を知ったりして興味をもつことができた。夏休みに、タンザニアについて調べた。	総合3 国際理解1
融合 メッセージ作成	9月	・エネルギーに関して、知っていることや世界のエネルギー事情を知る。	台風で日本が停電になった地域を身近に感じることで、エネルギー事情に興味をもち世界のエネルギーに対して調べることを楽しんでいた。	総合15 国際理解1
創造 壁画制作	11月	・日本のよさを季節ごとに分け、ライトアップされた日本の様子を絵で表した。	調べたことをまとめたり、日本のよさを絵に表したりしていた。相手意識をもって進んで取り組んだ。	総合15 国際理解2
評価 振り返り 自己評価	3月	・卒業式に展示した。	絵の内容に驚き、色使いや絵に表されていることに興味をもった。タンザニアとつながっているという意識をもつことができた。	

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	他の国について生活様式だけでなく、エネルギーという共通な視点をもったことで、改めて自国を見つめていたと感じる。
異文化を理解する力	4	他国の食文化や生活の様子について調べ学習だけでなく、出前授業や国際理解教室の学習においても理解を深めることができた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	エネルギーについて調べてまとめたり、英語だけでなくスワヒリ語で伝えたりしようともしていた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	3	連絡の取りあう機会が少なかったため、互いに理解し合い深め合うまでには到達しなかった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	批判的に考える視点が、教師側ももてなく難しい部分であった。
主体的に考え行動する力	3	相手意識をもてた時には、進んで行動する姿が見られた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	3	学級内での協働する力は、少し高められたと感じる。相手校と協働する点ではあまりうまくいかなかった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	日本のよさをどんな絵で伝えようか、一生懸命子ども達で考えていた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	作品が届くのが遅れたこと、子ども達が臨時休業に入ってしまったことから作品を鑑賞する時間が取れなかった。